

研究主題

協働的な学びを深め、思考力を高める児童の育成 ～課題解決的な交流活動の工夫を通して～

1 主題設定の理由

(1) 社会の要請から

中央教育審議会答申(2018)では、「主体的な学びについて、児童学習課題を把握し、その解決への見通しを持つことが必要であると述べている。そのためには、単元等を通した学習過程の中での動機付けや方向付けを重視し、児童の表現を促すようにすることなどが重要である。対話的な学びについては、課題を追求したり、解決したりする活動が不可欠である。」と言われている。

そこで、課題解決的な交流活動の工夫を通し、真正の課題に対し多面的に考え、自分の意見を形成していく学習過程を通じ、児童の協働的な学びを深め、思考力を高める児童を育成する本研修は、大変意義深いと考える。

(2) 本校の課題から

令和7年度の研究から次のような課題が明らかになった。

- ・ 自分の考えを書く際に、根拠のない考えを書いている児童がいたため、観点・根拠・解釈のセットで学習させる必要がある。
- ・ 単元のまとめをする段階場面で、「学習した成果をどう伝えたり表したりするのか。」という視点を与えて、振り返りをする必要がある。
- ・ 比較・検討の際の観点を考えるときに、出してほしい観点が出るような補助発問を考えておく。
- ・ 授業の導入や振り返りの前に、真正の課題を意識して価値づける。

これらのことから児童の深い学びの実現のために、教科の本質(見方・考え方)を踏まえ、「協働的な学び」を位置付けることが必要であると考えます。

2 主題に対する基本的な考え方

(1) 主題の意味

「協働的な学びを深め」とは

中央教育審議会において、「協働的な学び」とは、探究的な学習を通し、児童同士が他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する必要があるとされている。そこで、本校では児童一人一人の豊かな学びの実現に向け、真正の課題の解決に向け、学習に積極的に取り組む姿のこととする。

「思考力を高める児童」とは

学習の中で自らが立てた課題に対し、根拠を明確にして自分の考えを友だちに伝えながら考えることで、課題解決につなげていく姿のこととする。

(2) 副主題の意味

「課題解決的な交流活動」とは

児童が課題解決に向けて、自分の考えを伝えたり友だちの考えを聞いたりしながら、考えを広げたり深めたりする活動のことである。

3 研究のねらい

各教科のねらいを達成するための課題解決的な交流活動の工夫を通し、児童がよりよい考えを導き出す課題解決的な交流活動を仕組み、実践を積み重ねる。この交流を通し、児童同士が関わり合いながら学びを深める協働的な学びを実現し、自ら考えを深める思考力を高めることをねらいとする。

4 研究の仮説

授業において児童が解決したくなるような課題設定を行い、一人一人の考えが反映された思考ツールの活用、目的に応じた多様な交流活動の場を工夫すれば、児童は自らの考えを再構築し、協働的な学びが深まるとともに、思考力を高めることができるであろう。

5 研究の着眼

課題解決的な交流活動の工夫

課題解決に向かうための交流活動を設定し、児童が課題解決に向けて主体的に活動できる手段を考え、研究を行う。

着眼① 課題意識をもつことができるようにするための「真正の課題」の設定

課題把握の場面で、前時の学習内容のふりかえりや前時に指定した予習問題(課題)等の活用、既有経験・既有知識とのズレを生む活動の設定、モデルの提示、矛盾したデータの提示等を行う。

着眼② 相互に関わり合い、考えを広げたり深めたりするための交流活動について

教師が、自他の考えを可視化したり、共有したりするための教具の準備や座席の配置、自他の考えを説明し合ったり、話し合いにより自分の考えを付加・修正したりする等の対話活動の設定をする。

6 方法

チームによる授業サイクルの実施

下学年部、上学年部の2学年部に分かれ、授業づくりから模擬授業、授業公開、ふりかえりを行う。

